

現況と課題

- 社会を取り巻く環境が大きく変化する中、余暇時間の拡大・健康志向の高まりやライフスタイルの多様化により、スポーツに親しみながら豊かなライフスタイルを送りたいという市民意識が強まっている。
- 一方で少子高齢化・コミュニティ意識の希薄化により、市民運動会などの各種大会への参加者が減少している。
- 新たなひとの流れを呼び込むため、にぎわいや交流人口の創出に向けた方策の一つである「スポーツコンベンション」を推進する必要がある、その拠点となる施設の整備・充実が不可欠である。
- 多様化するニーズに対して市民との協働により応えていくために、スポーツ指導者やボランティアなどの人材確保や資質の向上などの課題がある。

これらを踏まえ全ての市民が、生涯にわたり様々なかたちでスポーツに親しみ、健康な体と心で豊かな生活を送ることができるよう

いつでも どこでも だれでも いつまでも
スポーツを楽しめるまち・水戸

を実現するための様々な施策を展開し、「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の充実を図り、生涯スポーツ社会の実現に向け、様々な取組を推進しているところである。

2 水戸黄門漫遊マラソンの開催



みとちゃん

市民のスポーツ活動の推進はもとより、スポーツコンベンションによる新たなにぎわいや交流を創出することで、中心市街地をはじめとした地域経済の活性化を目指す。

あわせて、運営ボランティアやランナー応援隊の多様な活動により、あたたかなおもてなしを実現している。



3 第74回国民体育大会・第19回全国障害者スポーツ大会

2019(平成31)年にいきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会が開催される。

市民がトップレベルの競技スポーツに触れるだけでなく、水戸の魅力を全国に発信できるようハード・ソフト両面から準備を進めている。

また、大会運営や情報支援ボランティア、おもてなしなど県民・市民一人ひとりが様々な形で参加することで、感動や喜びを共有していく。



4 学官連携事業によるスポーツ振興事業

学校法人梅村学園と連携協力協定を締結している。連携事業の一つに「スポーツに関すること」を掲げている。

【平成29年度の取組】

中京大学卒業のオリンピック競泳メダリスト松田丈志さんを講師に招いて、スポーツ講演会を開催し、世界トップレベルアスリートと交流する貴重な機会を提供する。



5 プロスポーツチームの支援を通じたブランドイメージの向上

サッカーJ2の水戸ホーリーホックと連携しながらホームゲームへの誘客促進や地域交流事業等、ホームタウン推進活動に取り組んでいる。また県内唯一のプロバスケットボールチームである、B2の茨城ロボッツとも連携し、地域貢献活動に取り組むなど、市のイメージ向上にも繋げている。



6 各種スポーツ施設の整備・機能強化

いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会の会場となる水戸市民球場や東町運動公園新体育館をはじめとした施設の整備等により、スポーツの振興とあわせて、新たなにぎわいの創出や交流人口の増加につながるスポーツコンベンションの推進にも取り組んでいく。



7 まちなか・スポーツ・にぎわい広場（M-SPO）

茨城ロボッツが運営する新施設が9月にオープンした。テント型アリーナ（バスケットボールコート1面）をはじめ、カフェや多目的スタジオで構成する施設を活用しながら、官民協働による新たなにぎわいづくりを目指している

【今後の取組】

- ・スポーツ文化の醸成を図るため、にぎわい創出事業・社会貢献活動等を実施することで、スポーツを通じたまちづくりを推進する。
- ・茨城ロボッツの練習の場として活用するほか、スポーツを通じた子どもたちの育成を図る。
- ・茨城ロボッツ及び市のPRに資するプロモーション活動や紹介パンフレットの制作

